

住民意識に基づく温泉資源の利用継続の方向性（その1）
—重要文化的景観の保全活用に関する研究—

準会員○木原郁乃^{*1} 正会員 姫野由香^{*2} 牛苗^{*3}
野村優太^{*3} 野本昂^{*3} 準会員 大堂麻里香^{*1}

7.都市計画—6.景観と都市設計 都市計画
文化的景観 生活・生業 湯けむり 温泉

1 研究の背景と目的

2005年に文化財保護法が改正され、新たな文化財の一類型として文化的景観^{注1)}が定義された。文化的景観のなかでも特に重要なものは「重要文化的景観」として選定される。2012年9月大分県別府市の鉄輪・明礬温泉地区（以下、鉄輪・明礬とする）「別府の湯けむり・温泉地景観」は、文化的景観として価値の高いものであることや、人々の生活・生業における温泉資源の多様な利用と、その資源管理の取り組みが評価され、「重要文化的景観」として選定された。

文化的景観の保全にあたっては、単に景観を構成する要素を保存するだけでなく、生活・生業を継続できる環境が必須であり、生活・生業の中で課題を検討し、方向性を示す必要がある。既往研究^{1)~6)}では、地区住民と外来者の温泉資源利用の傾向と温泉資源利用における課題や、重要文化的景観に選定された事実の認知度を把握し、周知のための課題が明らかにされている。

本報 その1では、明らかになった温泉資源の利用継続における「課題」を解決するための方策やその重要性を検討する。まず、温泉資源の利用継続における課題を解決できる提案を温泉資源と関わりながら生活・生業を営む住民とのワークショップにより改めて確認（共有）する。その際、必要な事柄を挙げ、その提案の重要性を整理する。得られた結果から、湯けむり景観の保全と活用の方向性検討のために必要な知見を得ることを目的とする。

2 研究の方法

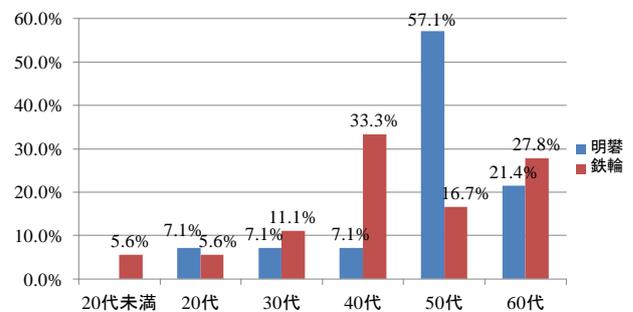
2-1 ワークショップの概要

本報 その1では重要文化的景観選定における温泉資源の利用継続に対する課題を解決できる提案を明らかにし、重要性を整理するために鉄輪・明礬の両地区でワークショップを各1回行う。ワークショップの実施概要と温泉資源と関わる住民（自治会員、事業者、

まちづくり団体等）の年齢構成を表1、図1に示す。明礬では57.1%が50代であり、半数以上を占めている。鉄輪では33.3%が40代となり最も多い。27.8%が60代であり40代と60代が中心である。

表1 ワークショップの実施概要

地区	日付	性別		合計(人)
		男性	女性	
明礬	平成26年6月1日(日)	10	4	14
鉄輪	平成26年6月26日(木)	12	6	18



2-2 ワークショップの流れ

ワークショップでは、まず「対象地区の温泉資源に関連した魅力」について考えた。その際に、①魅力、提案、課題を地図に書きだした。次に②温泉資源の利用継続の課題を共有し、課題に対する提案を明らかにした。次に、挙げられた提案に優先順位をつける。

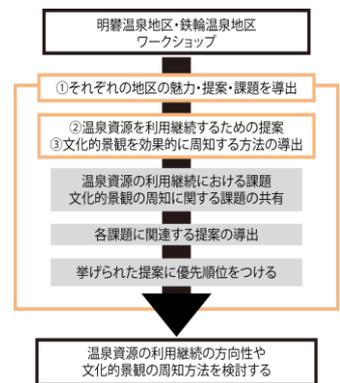


図2 ワークショップフロー

ワークショップの課題解決できる提案の重要性を整理し検討した。最後に、③文化的景観の効果的な周知方法に関する課題を共有し、課題に対する提案を明らかにした。解決するための提案の過不足を議論し、その重要性を検討した（図2）。本報では②の温泉資源の利用継続における提案を明らかにする。

Strategy of Continual Using Hot Spring Resources Based on Residents' Opinions(1)

-A Study on Conservation and Utilization of the Important Cultural Landscape -

KIHARA Ikuno, HIMENO Yuka, GYU Myo, NOMURA Subaru, ODOU Marika

3 対象地区について

別府八湯^{注2)}の一つである鉄輪は、地区内の至る所から湯けむりが立ち上り、温泉、地獄釜^{注3)}、地獄^{注4)}など温泉資源が豊富に存在する。現在でも貸間旅館などの宿泊施設が軒を連ね、湯治場的雰囲気の漂う温泉地域とされている。同じく別府八湯の一つである明礬は、湯治場としてだけでなく、1670年代からミョウバン、1720年代から湯の花^{注5)}の採取が行われてきた地区であり、重要無形民俗文化財^{注6)}である湯の花の製造を行う湯の花小屋^{注7)}を含む景観が存在する(図3)。



図3 対象地区図 (左:明礬, 右:鉄輪)

表2 温泉資源の利用継続における課題を解決できるとされた提案 (明礬温泉地区)

提案 分類	温泉資源の利用継続における提案 内容	提案数	推奨 提案	解決できるとされた課題							言及された 回数
				維持・管理・ 運営の問題	湯けむり による弊害	利用者の減少	居住者の減少	利用時の不満	後継者不足	行政との 連携不足	
利用を 促進する ハード整備	駐車場・道路の整備	6	●	○	○	○	○	○	○	15	
	憩い空間の設置		○	○	○	○	○	○			
	土地の提供		○	○	○	○	○	○			
	珍しい温泉施設の新設(シンボル、足湯カフェなど)		○	○	○	○	○	○			
維持・ 管理面の 改善	地区住民のための温泉資源施設 (地獄釜・共同温泉・公民館)	5	○	○	○	○	○	○	○	10	
	湯の花小屋・古民家を再生する		○	○	○	○	○	○			
	配管の素材を丈夫なもの(チタン)に変更		○	○	○	○	○	○			
	電気製品店に温泉対応の電気機器を作ってもらおう		○	○	○	○	○	○			
	温泉資源の共同管理		○	○	○	○	○	○			
イベント 開催	源泉枯渇時の代替措置	2	○	○	○	○	○	○	5		
	丈夫なものを作ってもらおう(電気製品)		○	○	○	○	○				
市や県 からの援助	温泉文化に根差したイベント	1	○	○	○	○	○	○	4		
	地獄釜の再開		○	○	○	○	○				
サービスの 向上	助成や支援を行う	3	○	○	○	○	○	○	3		
	共同浴場利用のメナー向上		○	○	○	○	○				
資源の 利活用	旅館・飲食サービス向上 (アメニティ・タオル・ボンチョの貸出)	1	○	○	○	○	○	○	2		
	移動手段の充実(シャトルバス・レンタサイクル)		○	○	○	○	○				
その他	温泉資源の新たな利活用 (既存のものでない商品を作りブランド化)	4	○	○	○	○	○	○	4		
	明礬地区としてやっていきたい		○	○	○	○	○				
	生業だけに坂を使う		○	○	○	○	○				
	住民が若い人たちに魅力を伝えていく 別府市がどう思っているのか知りたい		○	○	○	○	○				
合計		22	7	5	8	8	6	3	1		

●・・・3つの班から挙げられた提案 ○・・・2つの班から挙げられた提案 ○・・・1つの班から挙げられた提案

4 温泉資源の利用継続の方法

既往研究⁵⁾において、温泉資源の利用継続における課題は「維持・管理・運営の問題」、「湯けむりによる弊害」、「利用者の減少」、「居住者の減少」、「利用時の不満」、「後継者不足」、「地盤沈下」の7つが明らかにされた。ワークショップでは、これらの温泉資源の利用継続の課題解決につながる提案と方向性を検討する。挙げられた提案は、複数の課題解決につながる提案、複数の課題解決につながらずとも地域の取り組みとして必要である提案を重要な提案として位置づけ、挙げられた提案がどの課題の解決につながるかを整理した。

4-1 明礬温泉地区

明礬では、温泉資源の利用継続の課題が8つあり、課題解決につながる提案が22件言及された。最も多くの提案とつながる課題は「利用者の減少」、「居住者の減少」であり、課題解決につながる提案がそれぞれ8

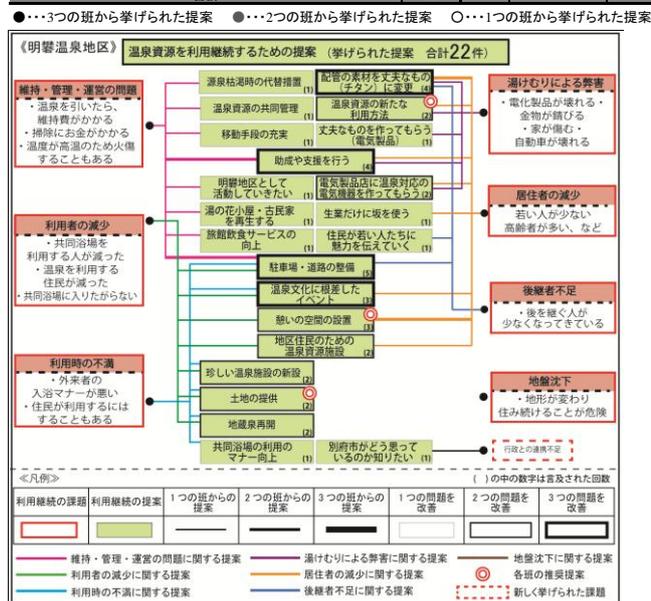


図4 各課題解決に結びつくとしてされた提案 (明礬温泉地区)

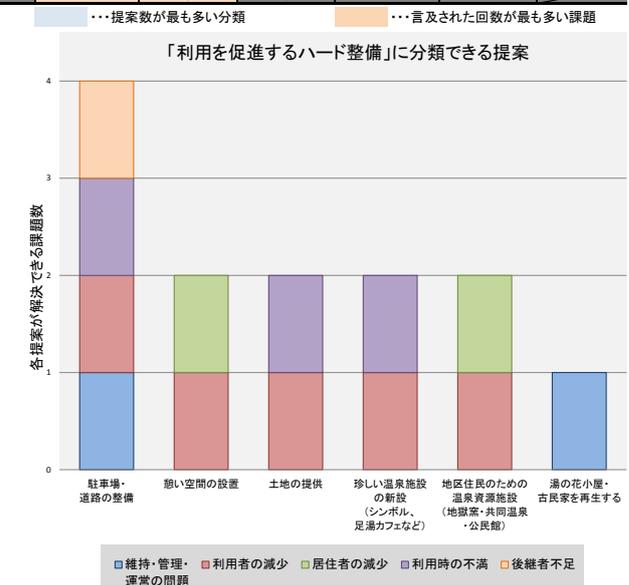


図5 各提案が解決できるとされた課題の数

件ずつ挙げられた。この22件の提案を大きく7つに分類した(表2)。挙げられた提案のなかで、「利用を促進するハード整備」に分類できる提案が6件であり最も多く、言及された回数も15回と最も多い。次に、各分類の提案内容について考察する。本報では紙面の都合上、最も多く提案が挙げられた「利用を促進するハード整備」のみ考察する。最も多くの課題解決につながる提案は「駐車場・道路の整備」である。「駐車場・道路の整備」は、合計4つの課題解決につながる言及され、「利用者の減少」、「利用時の不満」、「後継者不足」解決につながる言及された。「維持・管理・運営の問題」に対して2つの班から課題解決につながる提案として挙げられた(図4、図5)。また「イベント時の駐車場として利用できる」、「にぎわいにつながる」などの言及もされた。「利用を促進するハード整備」には2つの推奨提案がある。「憩い空間の設置」は「利用者の減少」

に対して2つの班から言及され、「居住者の減少」の解決にもつながるとされた。憩いの空間をつくることで「にぎわいが生まれる」、「運営は自分でする」などの言及もあった。一方で「土地の提供」は「利用者の減少」、「利用時の不満」の解決につながる言及された。このことから、ハード整備の促進により、住民の生活基盤の向上と外来者の利用しやすい環境の充実が図られ、温泉資源の利用者の増加につながる言及が考えられる。「憩い空間の設置」と「土地の提供」は多くの課題の解決に結びつく提案ではないが、重要な提案である言及がわかる。

4.2 鉄輪温泉地区

鉄輪では、温泉資源の利用継続における課題解決につながる提案が14件挙げられた。最も多くの提案とつながる課題は「維持・管理・運営の問題」であり、課題解決につながる提案は12件挙げられた。挙げられた

表3 温泉資源の利用継続における課題を解決できるとされた提案 (鉄輪温泉地区)

提案	温泉資源の利用継続における提案			推奨提案	解決できるとされた課題							
	分類	内容	提案数		維持・管理・運営の問題	湯けむりによる弊害	利用者の減少	居住者の減少	利用時の不満	後継者不足	言及された回数	
維持・管理面の改善		温泉資源の共同管理	7	●				○		○	17	
		源泉枯渇時の代替措置		○				○		○		
		配管の素材を丈夫なもの(チタン)に変更		○				○		○		
		配管、源泉の集中管理をする		◎						○		
		オーナー制度の導入		◎						○		
		配管の掃除や管理体制を作る		○						○		
		配管の掃除や管理体制に関連した雇用を作る		◎						○		
資源の利活用		捨て湯・余り湯の再利用	3	◎	●			●		●	11	
		温泉資源の新たな利活用(化粧品、発電、暖房ほか)		◎	○			○		○		
		温泉の新規掘削をやめる		○								
市や県からの援助		助成や支援を行う	1		●			●		○	5	
利用を促進するハード整備		珍しい温泉施設の新設(シンボル、足湯カフェなど)	2	◎	○					○	4	
		新たな温泉資源利活用の体験・機会					○					
サービスの向上		温泉資源のサービス向上	1			○			○		2	
合計			14		12	0	2	7	1	10		

●・・・3つの班から挙げられた提案 ●・・・2つの班から挙げられた提案 ○・・・1つの班から挙げられた提案

...提案数が最も多い分類 ...言及された回数も最も多い課題

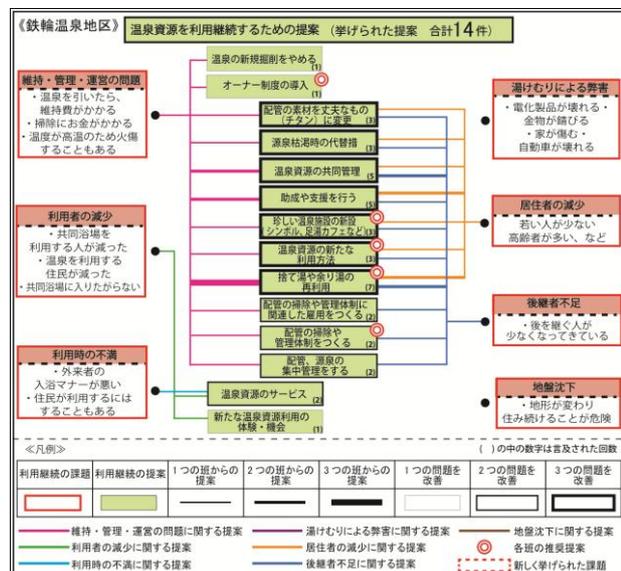


図6 各課題解決に結びつく言及された提案 (鉄輪温泉地区)

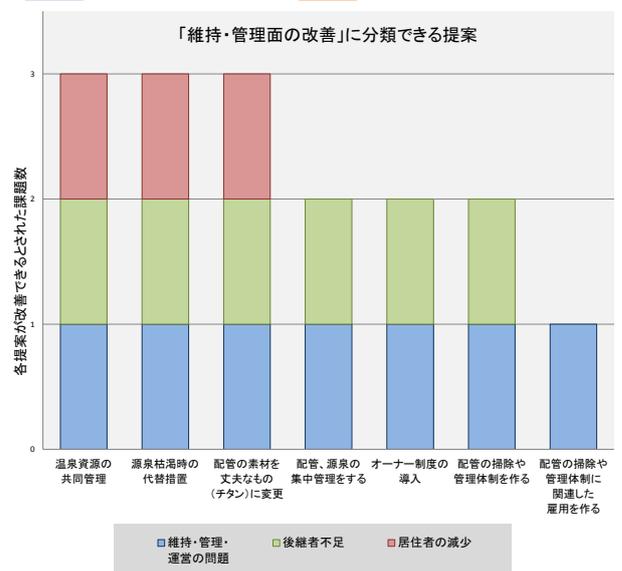


図7 各提案が解決できるとされた課題

提案のなかで「維持・管理面の改善」に分類できる提案が7件で最も多く、言及された回数も17回で最も多い。次に、各分類の提案内容について考察する。本報では紙面の都合上、最も多く提案が挙げられた「維持・管理面の改善」のみを考察する。最も多く課題解決につながる提案は「温泉資源の共同管理」である。「温泉資源の共同管理」は合計3つの課題解決につながるとされ「維持・管理・運営の問題」に対して、2つの班が課題解決につながる提案として挙げている(図6, 図7)資源管理が「個人になりすぎ」といった言及もあった。次いで「配管、源泉の集中管理をする」は「維持・管理・運営の問題」と「後継者不足」の解決につながる提案として挙げられ、「配管の掃除や管理体制に関連した雇用をつくる」などの提案と共に言及された。同じく「オーナー制度の導入」は「維持・管理・運営の問題」、「後継者不足」の解決につながる提案として挙げられた。この3つの提案は各班の推奨提案として挙げられた。このことから、「維持・管理・運営の問題」に対して、管理体制の見直しや新たな雇用制度の導入の検討も必要であると考えられる。一方、温泉資源の共同管理や配管、源泉の集中管理は個人資産に関わるため実現は困難と考えられる。そのため個人による資源管理の限界と不安を解決する方策の検討が必要であるといえる。つまり、「配管、源泉の集中管理をする」、「配管の掃除や管理体制に関連した雇用をつくる」「オーナー制度の導入」は多くの課題解決につながる提案ではないが、重要な提案であることがわかる。

5 総括と今後の課題

本報では明礬、鉄輪でワークショップを行い、温泉資源を利用継続するための課題を解決できる提案を明らかにし、その提案の重要性を整理した。

明礬では、「利用を促進するハード整備」に分類できる「憩い空間の設置」、「土地の提供」、「駐車場・道路の整備」が、「利用者の減少」、「居住者の減少」の解決につながるということがわかった。つまり、公共空間の整備が、温泉資源の利用者の増加につながりやすくとされ、地区の温泉資源を利用継続するための一助となると考えられる。鉄輪では「維持・管理面の改善」に分

類できる「配管、源泉の集中管理をする」、「配管の掃除や管理体制に関連した雇用をつくる」、「オーナー制度の導入」、「温泉資源の共同管理」が、「維持・管理・運営の問題」の解決につながるということがわかった。つまり、管理体制の見直しや新たな管理体制の整備が資源管理の持続性や、次世代へ温泉資源を継承することにおいて有用であると考えられる。

しかし、これらのワークショップで挙げられた提案は大規模な工事や個人財産に関わるため、温泉資源を所有している人の理解を得ることが重要となる。住民だけで理解を得ることや、温泉資源の管理体制の整備と公共空間の設置は困難なため行政や専門機関が中心となって管理体制を見直しや、ハード整備を進めることが重要になる。

「湯けむり景観」を保全するためには、温泉資源を利用継続していくことが必要不可欠である。そのため、温泉資源の利用継続の方法を有効に活用していくことが重要であるといえる。加えて、日常生活のなかで身近に存在する文化的景観の価値の周知に取り組むことも重要である。その2では文化的景観の価値の周知方法について把握する。

【補注】

- 注1) 文化的景観「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの(文化財保護法第二条第一項第五号より)」
- 注2) 別府八湯「別府市内の8つの代表的な温泉地の総称であり、浜脇・別府・亀川・鉄輪・観海寺・堀田・柴石・明礬温泉を指す」
- 注3) 地獄釜「温泉の蒸気熱を利用した加熱調理装置」
- 注4) 地獄「極めて高温の温泉が大量に湧出する源泉地帯」
- 注5) 湯の花「湯の花小屋と呼ばれる瓦葺小屋を建て、小屋の中に青粘土を敷き詰め粘土から析出し結晶化したもの」
- 注6) 重要無形民族文化財「平成18年3月に国に指定された。」
- 注7) 湯の花小屋「湯の花を精製するための小屋。内部の温度を一定に保ち雨漏れせず、蒸気中の水分を藁屋根が水滴とならず、屋外へ放出する。」

【参考文献】

- 1) 別府市教育庁生涯学習課「平成20年度湯けむり景観保存管理のための専門調査報告書」2009年3月
- 2) 別府市誌、第1巻～第3巻
- 3) 別府市「平成23年度明礬温泉地湯けむり重点計画景観計画策定 委託業務 報告書」2012年3月14
- 4) 奈良文化財研究所「文化的景観研究集会(第2回)報告書」2010年12月
- 5) 別府市教育庁生涯学習課「平成25年度別府市文化的景観保全活用計画策定に係る住民意向調査報告書」2014年3月
- 6) 松本彩花、森下泰敬、姫野由香、佐藤誠治「生活・生業と温泉資源の関わりにより創造される景観の将来像の導出—別府市明礬温泉地区湯けむり重点景観計画策定に関する研究—」日本建築学会九州支部研究報告第51号3, pp.485~488, 2012.3

*1 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生

*2 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

*3 大分大学大学院工学研究科博士前期課程

Undergraduate Student, Oita Univ.

Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., DrEng

Graduate Student, Oita Univ.